

仙建総合研修センター 完成



施工のポイント

仙建総合研修センターは、仙台国際空港アクセス線を利用出来る立地に建設し、鉄道工事の安全レベルや技術力の維持向上を主な研修の目的としています。実際の線路と同様の構造物を配置し、線路保守車両の運転資格の取得や営業している線路で実施することが難しい実技訓練を実施することで、弊社の事業基盤である鉄道工事に関する安全教育・技術取得を効率的に行うことが可能な施設となります。

「見える安全・品質」を推進

工事を進めるにあたり、建設作業所は20代を中心とした若手社員を多く配置し、建設中も講習しながら安全や技術力の習得を目的に人員を構成しました。建設地は、空港が隣接しているため、航空法の制限による重機などの制約の掛かる中で工事を進めました。夏は海風、冬は蔵王おろしが吹き荒れる気象条件に加え、旅客機が頻繁に往来するなど特に資機材の飛散などに十分考慮しました。そのために掲示物や飛散する物を極力減らしながら働く作業員への周知徹底に努めました。

建物は土木、建築、線路の複合工事となり、各部門の「現場ルール・施工情報の見える化」を重要事項に定め、部門ごとの違う工事情報の発信、共有に努めました。特に重要なポイントとなる安全面は、作業所内の安全ルールを徹底するため広場に多くのサイネージなどを活用することで指示を明確化し、文字に頼らない区画材の色分けや作業計画書の記入例の作成など労働災害防止に取り組みました。

また、品質では使用前に実際の材料を検証しながら、選定理由を掲示するなど現場全体で施工情報の共有を図りました。各部門が作業所へ集結することで、土木、建築、線路の各部門の目標は一つになり仕事の効率化を図ることができました。

『見える安全・品質』から『見える安全・品質』を推進していくことにより、工事の品質や安全管理を円滑に進めることができました。最後に、工事に携わっていただいた多くの皆様一人ひとりに深く感謝申し上げます。

新研修センター建設作業所長 我妻 敏浩



高所体感施設



検修庫

工事概要

- 事業名：新研修センター建設工事
- 建設地：宮城県名取市下増田屋敷115-2
- 敷地面積：48,468㎡
- 発注者：仙建工業株式会社
- 設計：仙建工業株式会社
- 施工：土木工事＝栄喜工業㈱、日本電設工業㈱東北支店
建築工事＝カメイ㈱宮城支店、サイト工業㈱、日本電設工業㈱東北支店、東北ムラテツ㈱、大成ロディック㈱東北支店
- 工期：2023年5月27日～2025年2月20日、2025年2月26日竣工
- 建物規模：研修・実習棟＝S造2階建て延べ3,360㎡、研修線（在来線総延長812m、新幹線261m）、踏切設備、トンネル（延長20m）、大型保線機械、レール溶接訓練実習室、測量実習エリア



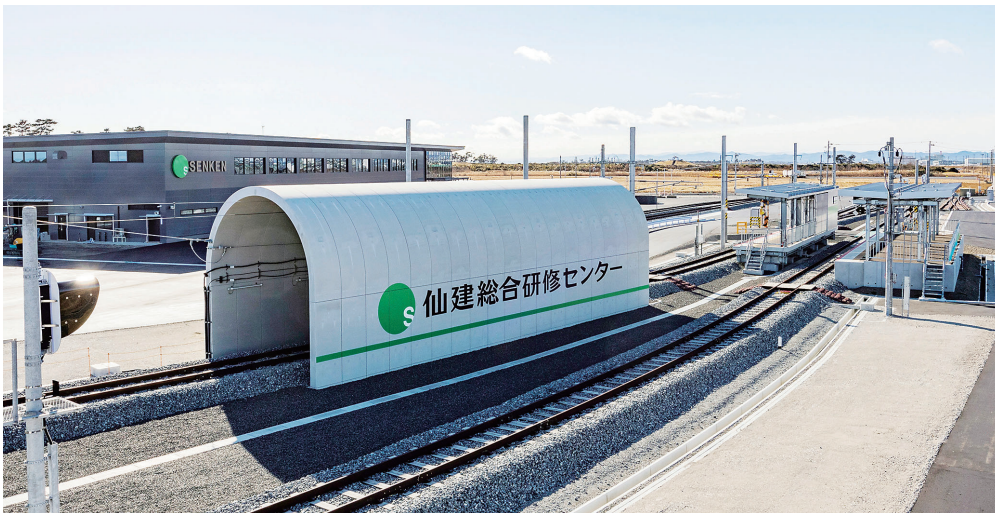
研修実習棟



モックアップ（建築／鉄筋コンクリート造建物）

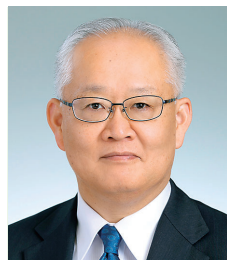


モックアップ（土木／ボックスカルバート）



研修線 トンネル、乗降場

鉄道インフラ担う技術者の教育・育成拠点



仙建工業株式会社

代表取締役社長 中村 知久

社会を支える人財育成の場に

仙建工業は、1942年の創業以来、東北地域の鉄道網の整備を中心としたインフラの建設・メンテナンス工事により地域と共に歩んできました。少子高齢化や世代交代が進むなか、鉄道は将来にわたり残さなければならない大事なインフラです。その鉄道を守り、東北地域の発展につなげていくことが我々仙建工業の使命であります。

このたび完成した「仙建総合研修センター」は実際の鉄道施設と同様の環境で研修ができる施設として整備しました。施工現場に近い環境、かつ列車の走らない保守間合いに制限されない場所で教育・訓練を実施し、社員や協力会社の技術・安全レベルの一層の向上に努め、社会を支える人財を育成してまいります。

計画・コンセプト

安全と確かな技術で鉄道を支え、地域社会に貢献し信頼される企業であり続けるためには、何よりも「人財育成」が重要です。宮城県名取市の防災集団移転促進事業跡地に4万8000平方メートルの土地を購入し、実際の鉄道施設同様の研修ができる「仙建総合研修センター」を新設しました。

新研修センターは、大きく分けて研修実習棟と研修線があり、まず研修実習棟は鉄骨2階建てで、講習室5室を配置し、最大100人が学ぶことができるほか、線路のメンテナンスに使用する大型保線機械の運転操作ができるシミュレーター室を設置し、運転者の危機回避能力の向上を図ることが可能となります。

また、当社で過去に起こした重大事故を中心に映像や実物展示、VRなどのコンテンツを活用し、改めて「安全」の重要性を学ぶ「事故に学ぶ館」も併設しています。安全体感ゾーンは、感電・指差呼称・回線系電動工具・床滑り・挟まれ・落下衝撃・墜落制止などの重要性などを体感して安全意識向上を図ります。モックアップゾーンは、土木構造物で、実際のボックスカルバートの鉄筋模型、型枠模型、完成模型の3種類を配置し、鉄筋の配筋状態、型枠を型、型枠の組立、コンクリートの表面状態などに触れて、土木構造物のメンテナンスに使用する大型保線機械の2台配備し、実際の運転者の走行訓練、脱線復旧訓練、軌道整備実習などをを行います。

新しい研修センターは実際の施工現場に近い状況で教育・訓練すること、社員・協力会社の安全レベル、技術レベルの一層の向上と、未来を担う研修生の育成に努めてまいります。

仙建総合研修センター

所長 穴沢公英

安全と確かな技術を育む

実習棟の壁には、在来線・新幹線の建築限界図や架線の加圧範囲を実物大で目視できるように表示しています。研修者は、鉄道工事の実習が行えるように在来線・新幹線それぞれの規格で線路を敷設し、橋りょう・ホーム・トンネル、こ線橋等の構造物を設置しました。踏切や信号設備も実際の線路と同様の軌道回路を構成している。また線路のメンテナンスに使用する大型保線機械2台配備し、実際の運転者の走行訓練、脱線復旧訓練、軌道整備実習などをを行います。



事故に学ぶ館



モーターカー運転シミュレータ

東北の未来創るプロフェッショナルへ 2025年新入社員研修

鉄道技術のプロフェッショナルを育て、東北の未来を支える人材に――。2025年度新入社員を対象にした研修が新たに完成した仙建総合研修センターで始まった。土木6人、建築2人、線路9人、事務1人の新入社員が参加。実物を見て、触れて、学びと体験の両方から研修を通じて成長を後押しする。



指差し喚呼



新入社員18人が元気に研修



仙建工業株式会社

代表取締役社長 中村知久

仙台市青葉区一番町 2-2-13 電話 022-225-8511